

# 2023年度満足度調査(英コミ)

## 検証内容

今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学修成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

【アンケート回収率73.0%】(前年度61.9%)

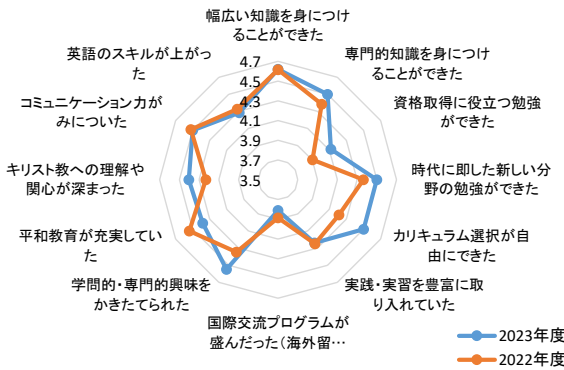
### 【カテゴリ毎の満足度】

各数値の基準

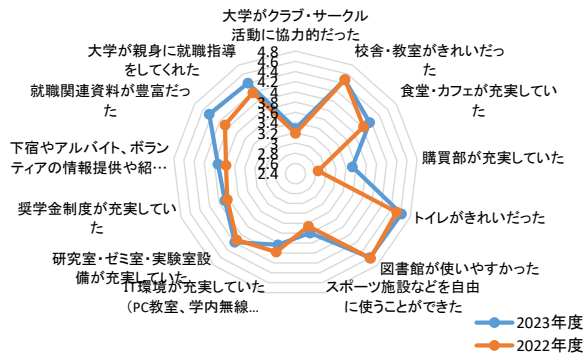
満足：5、やや満足：4、どちらともいえない：3、やや不満：2、不満：1

そう思う：5、ややそう思う：4、どちらともいえない：3、あまりそう思わない：2、そう思わない：1

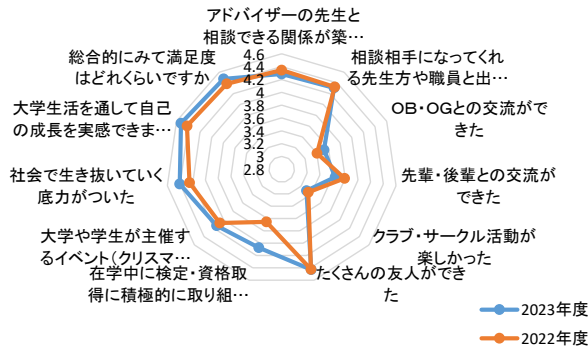
### カリキュラムの適切性



### 施設・設備・制度に関する満足度



### 大学生生活に関する満足度



### 【学生からのコメントのテキストマイニング】

《一番学びの大きかったこと》



《早くに知っておきたかったことやつまづきを感じたこと》



それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算し違いをみていきます。

#### 【カリキュラムの適切性】

12項目中、前年度より上がったのが7項目、下がったのが5項目で変化率が5%を超える項目は次の2つであった。

・資格取得に役立つ勉強ができた(5.5%) / ・カリキュラム選択が自由にできた(6.8%)  
総合して高い評価を受けており、特に「幅広い知識を身につけることができた」が最も高い評価を受けています。しかし「国際交流プログラムが盛んだった(海外留学・研修)」は比較的评价が低く、この領域での改善を考慮する必要がある。

#### 【施設・設備・制度に関する満足度】

13項目中、前年度より上がったのが10項目、下がったのが3項目で、当該カテゴリの満足度は高いといえる。変化率が5%を超える項目は3つであった。

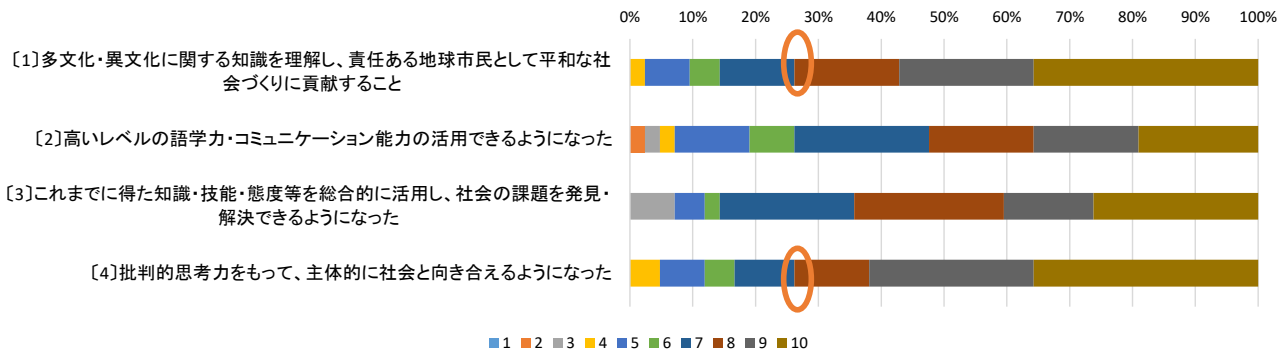
・購買部が充実していた(23.8%) / ・就職関連資料が豊富だった(9.2%) / ・大学が親身に就職指導をしてくれた(5.1%)  
「図書館が使いやすいかつた」と「トイレがきれいだった」が高い評価を受けている。「大学がクラブ・サークル活動に協力的だった」は最も低く、これから学生のクラブ・サークル活動への支援の強化が考えられる。

#### 【大学生生活に関する満足度】

11項目中、前年度より上がったのが7項目、下がったのが4項目で、当該カテゴリの満足度は上がっているといえる。変化率が5%を超える項目は次の1項目であった。

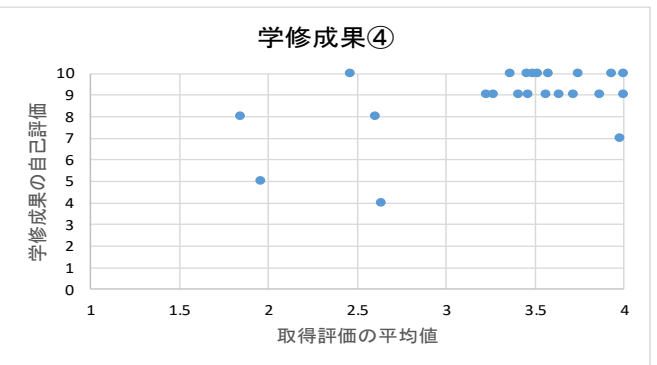
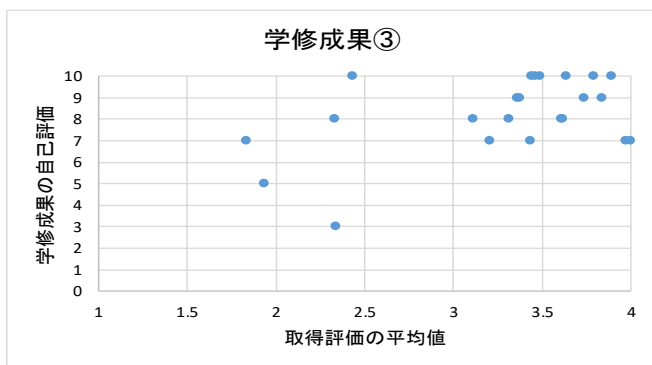
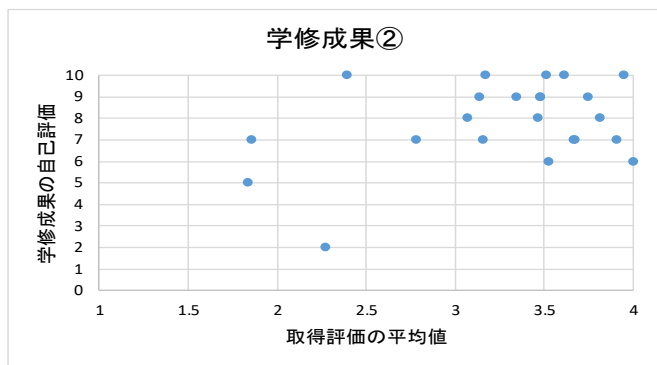
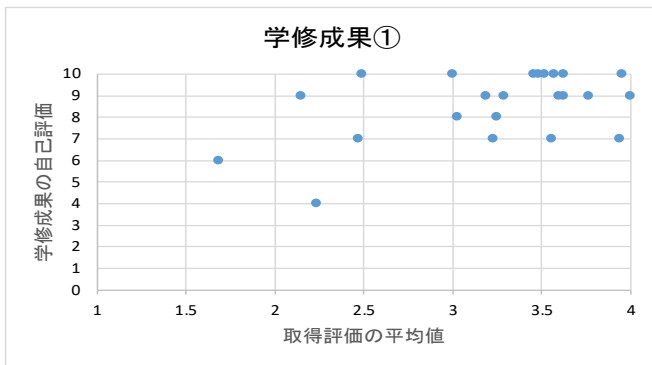
・在学中に検定・資格取得に積極的に取り組んだ(11.4%)  
「たくさんの友人ができた」が高い評価いが「クラブ・サークル活動が楽しかった」は評価が低く、上記の施設・設備・制度面での満足度と同じく、ここでも改善の余地があることが示されている。

## 学修成果の自己評価



学生に対し本学で定める学修成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

上のグラフから、学修成果[1][4]において評価8以上の割合が約70%と同じであることがわかる(オレンジ丸枠)。学修成果[4]はさらに、評価9の割合が大きく、学生の自己評価は総じて高いといえる。全て高い評価を受けており、特に「多文化・異文化に関する知識を理解し、責任ある地球市民として平和な社会づくりに貢献すること」が最も高い評価を示している。質問項目によっては標準偏差が大きく、評価に幅があることがわかります。これは、学生によって体験や感じ方に大きな違いがあることを示している可能性がある。



この散布図は、縦軸が学生による学修成果の自己評価(10段階)で、横軸が各学生の成績の平均値を表しています。この平均値は、各学修成果に紐付けられている科目の成績を集計しており、これにより学修成果毎の自己評価(主観的データ)と、実際の成績(客観的データ)との関連をみることができる。

学修成果①から④の散布図からは、ばらつきの違いはあるが右上に点が集まっており、取得評価の高い学生が学習成果に対して高い自己評価をしているようにみえる。特に学習成果①と学修成果④にはこの現象が強くみられる。しかし、取得評価と学習成果の自己評価の間の相関係数は低く(0.02~0.37)であり、0.4以上(もしくは-0.4以下)が相関有りだとされる中で、今回の結果は数値的にも相関が全くないといえる。